

対人認知に及ぼす服装色の効果(1)

The Effects of Color of Clothes on Interpersonal Perceptions

池田 浩子
近江源太郎

女子美術大学大学院美術研究科
女子美術大学

Hiroko Ikeda
Gentarow Ohmi

1. はじめに

人は他者のパーソナリティーを判断する時、顔立ちや服装といった入手しやすい情報を手がかりに、その人物の全体的な印象を形成する。その際衣服における色彩は、重要な要素のひとつである。

そこで本研究では、対人認知に及ぼす服装色の効果を明らかにするために、調査し分析を行った。

2. 方法

5人の女子大学生（顔を隠した1人を含む）の着る上衣（オープンカラーの無地の綿の長袖のブラウス）に様々な色を用いたスライドを提示し、その人物の容貌および着ている服装色からもたらされる全体的な印象を推測させ、計20組のSD法7段階尺度上で評定させた。

尺度は、パーソナリティー特性の評定に林(1978)が用いた対人認知における特性形容詞を、また色彩感情で用いられる形容詞には大山ら(1965)が用いたものを参考に選び出した。

色は、Vivid トーン、Light トーン、Deep トーンから、それぞれ赤、黄、緑、青、紫の5色相を選び有彩色15色と、白、グレー、黒の無彩色3色の計18色とした。

被験者は女子大学生で計117名で、調査を1998年10月12日～20日の間に4回に（それぞれ30名前後）分けて実施した。

3. 結果と考察

3-1. 因子構造

印象評定の結果の平均値（尺度 20×サンプル 90=1800）を主因子法により因子分析し、これをバリマックス回転した。その結果、全尺度とも共通性が高くなり第3因子までで（固有値が1.0以上）全分散の約89%が説明された。第1因子に高い負荷量を示すのは、「外向的な一内向的な」、「消極的な一積極的な」、「活発な一おとなしい」などといった尺度である。よって『活動性』の因子と解釈する。第2因子には、「心のひろい一心のせまい」、「やわらかい一かたい」、「親しみやすい一親しみにくい」などといった尺度が高い負荷量を持っていることから、『個人的親しみやすさ』の

因子であると解釈する。第3因子には、「知的でない一知的な」、「無責任な一責任感の強い」、「無分別な一分別のある」などといった尺度が高い負荷量を持っていることから、『社会的望ましさ』の因子と解釈する。

表1. 因子分析結果（バリマックス回転）

尺 度	X1	X2	X3	共通性	平 均	標準偏差
外向的な一内向的な	0.984	-0.178	0.102	0.970	3.614	0.838
消極的な一積極的な	-0.928	0.294	-0.043	0.950	4.424	0.819
活発な一おとなしい	0.924	-0.219	0.250	0.983	3.904	0.938
派手な一地味な	0.840	-0.128	0.433	0.910	3.818	1.258
弱い一強い	-0.804	0.540	0.108	0.949	4.614	0.981
気長な一短気な	-0.744	0.584	-0.183	0.927	4.043	0.814
意志が弱い一意志が強い	-0.728	0.586	0.270	0.943	4.682	0.878
明るい一暗い	0.717	0.465	0.308	0.826	3.769	0.790
心のひろい一心のせまい	-0.285	0.879	-0.134	0.872	3.908	0.511
やわらかい一かたい	-0.185	0.884	0.340	0.886	4.219	0.920
親しみやすい一親しみにくい	-0.219	0.861	-0.254	0.853	4.251	0.672
感じの良い一感じの悪い	-0.241	0.824	-0.413	0.908	3.867	0.559
つめたい一あたたかい	-0.077	-0.784	-0.390	0.774	3.827	0.760
いじわるな一親切な	0.674	-0.783	0.127	0.928	3.914	0.679
知的でない一知的な	0.241	0.093	0.920	0.913	4.384	0.671
無責任な一責任感の強い	0.145	0.098	0.904	0.848	4.367	0.527
無分別な一分別のある	0.433	-0.140	0.832	0.889	4.307	0.646
慎重な一軽率な	-0.649	0.024	-0.712	0.929	3.805	0.737
好きな一嫌いな	0.149	0.371	-0.871	0.610	4.164	0.507
しっかりした一たよりない	0.438	-0.503	-0.837	0.851	3.247	0.742
固有値	7.05	5.94	4.73			
寄与率(%)	35	30	24			
累積寄与率(%)	35	65	89			

3-2. 各因子の特徴

各刺激要因毎に因子別の因子得点の平均値と標準偏差を求めた。（以下の数字は平均値を表す）

4人の刺激人物について、『活動性』が最も高いものが0.57であり、逆に最も低いものが0.55であった。『個人的親しみやすさ』が最も高いものが0.28であり、逆に最も低いものが-0.21であった。『社会的望ましさ』が最も高いものが0.16であり、逆に最も低いものが-0.65であった。

つまり、刺激人物は、『活動性』の因子が最も影響されやすく、『個人的親しみやすさ』の因子が最も影響されにくかった。

次に色彩について、各因子毎の上位及び下位の3つをあげる。『活動性』の高いものは、Deep Red (1.54)、Vivid Red (1.40)、Vivid Yellow (0.84)で、低いものは、Gray (-1.82)、Deep Yellow (-1.38)、Light Purple (-0.78)である。『個人的親しみや

すさ』の高いのは Light Red (2.08)、Light Yellow (1.46)、Light Green (0.99) で、低いものは Deep Purple (-1.00)、Deep Blue (-0.91)、Vivid Purple (-0.86) である。しかし、Light Yellow は標準偏差の値がやや大きいことから、着装者によって多少その印象が異なる色といえる。『社会的望ましさ』の高いのは Black (1.65)、White (1.46)、Deep Blue (0.52) で、低いものは、Vivid Yellow (-1.97)、Vivid Purple (-0.68)、Vivid Red 及び Light Green (-0.62) である。

つまり、『活動性』の因子は赤系対グレー、『個人的親しみやすさ』の因子は明るく薄い色対暗く濃い紫や青、『社会的望ましさ』の因子は無彩色、紺対原色の赤、黄、紫となる。

さらに、色彩の効果について、トーンと色相別に見ていくと次のような特徴がある。

Light トーンは、『個人的親しみやすさ』の因子 (1.05) が最も高く、『活動性』の因子 (-0.17) がやや低い。

Vivid トーンは、『活動性』の因子 (0.59) が最も高く、『個人的親しみやすさ』 (-0.57) 及び『社会的望ましさ』 (-0.70) の因子の双方において最も低い。

Deep トーンは、『社会的望ましさ』の因子 (0.35) がやや高く、『個人的親しみやすさ』の因子 (-0.37) がやや低い。

無彩色は、『社会的望ましさ』の因子 (1.10) が最も高く、『活動性』の因子 (-0.74) が最も低い。

色相については、赤は『活動性』 (0.89) 及び『個人的親しみやすさ』 (0.62) の因子が最も高く、『社会的望ましさ』の因子 (-0.35) がやや低い。黄は『個人的親しみやすさ』の因子 (0.51) がやや高く、『社会的望ましさ』の因子 (-0.66) が最も低い。青は『活動性』 (0.25) 及び『社会的望ましさ』 (0.35) の因子がやや高く、『個人的親しみやすさ』の因子 (-0.33) がやや低い。紫は『個人的親しみやすさ』の因子 (-0.60) が最も低く、『活動性』の因子 (-0.28) でも低く、緑と同様に3因子全てに低い。

また、標準偏差の値から、各因子において評価に開きがありみられないのは、『活動性』の因子での青や緑、『個人的親しみやすさ』の因子での紫、『社会的望ましさ』の因子での青や赤や紫などである。それに対し評価に開きがあるのは、『活動性』の因子での黄や赤、『個人的親しみやすさ』の因子での赤、『社会的望ましさ』の因子での黄などである。つまり、『活動性』や『個人的親しみやすさ』の因子での赤や、ほぼ全ての因子における黄は、どちらもトーンに左右されるのに対し、『活動

性』の因子での青や緑、『個人的親しみやすさ』の因子での紫や、『社会的望ましさ』の因子での青は、トーンにあまり左右されないといえる。

4. 結論

対人認知における各因子に対する服装色の影響が認められた。『活動性』の因子では、正方向に Vivid トーンおよび赤、負方向にグレーを中心とした無彩色、紫、Light トーン、『個人的親しみやすさ』の因子では、正方向には Light トーンおよび赤や黄が、負方向には Vivid トーンおよび紫、『社会的望ましさ』の因子では、正方向に黒や白の無彩色、負方向に Vivid トーンおよび黄や紫や赤がそれぞれ大きく作用した。また、Light Red、Vivid Red、Vivid Yellow、Deep Yellow、Gray、Black は刺激人物にかかわりなく、色彩の影響を強く与える性質をもっている色彩といえる。

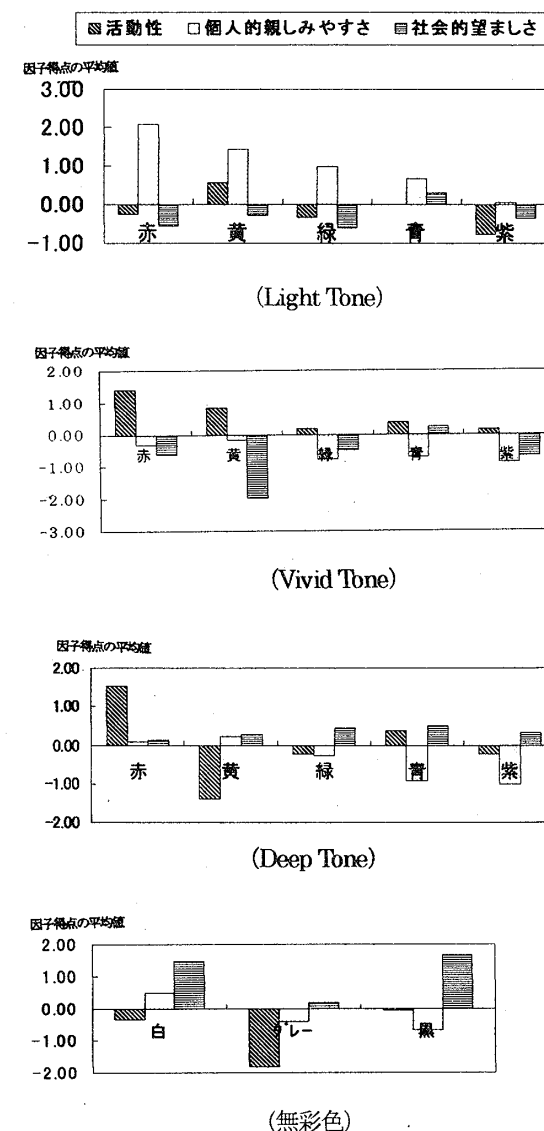


図1. 各因子における因子得点の平均